

駆け込み乗車をいかに減少させるか

1872（明治5）年の新橋～横浜間の開業以来、我が国では今日に至るまで、鉄道は人々の主要な交通手段となっている。特に、都市圏内の通勤・通学や都市間の幹線輸送において、それが果たしている役割は極めて大きい。また、高速旅客鉄道の分野では、技術的にも、経営的にも世界の先端を走っている。

しかし、こうした有用な鉄道にも、他面で事故という負の側面がある。鉄道事故は現在では減少傾向にあるとはいえ、年間約850件発生している。鉄道事故の防止は、引き続き重要な課題である。

本稿では、鉄道事故をさらに減少させていくために、主として都市圏で問題となっている駆け込み乗車問題を考察する。駆け込み乗車とは、扉が閉まりかけているにもかかわらず、無理に列車に乗車しようと試みる行為のことをいう。自らの所持品を先に扉に挟ませ、強引にでも再び扉を開かせて乗車しようとする悪質なものもある。駆け込み乗車は、鉄道事業者が長期にわたり頭を悩ませている問題でもある。

一見すれば駆け込み乗車は些細な行為にも感じられ、利用客にとっては出発が数秒遅れる程度であり、さほど影響がないように見える。また、ある程度の対策を講じれば比較的容易に抑制できうるものであるように考えられる。しかし、この分野の先行研究によれば、駆け込み行動者の心理的な面などを考慮すると、駆け込み乗車を減少させることは困難であるとされている。

本稿では、実態調査に基づいて、駆け込み乗車の実態を明らかにし、それを減少させるための具体的な提案を行った。